

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第65回 LLW廃棄体等製作・管理分科会 (F9Ph2SC) 議事録

1. 日時： 2025年9月5日（金） 10時00分～11時30分
2. 場所： WEB会議（Webexを使用）
3. 出席者（順不同、敬称略）
(出席委員) 福元主査、石川副主査、田村幹事、上田、椋木、工藤、小松原、坂下、大杉、鈴木、新崎、丸、横田、脇（14名）
(欠席委員) 田中、柳原、山本（3名）
(常時参加者) 古田、佐藤（由）、瀧谷、上市、山崎、山本、山田、前川、中浜、柏木、阿部、東出、菅原、野村、駒月、宇田（16名）
(欠席常時参加者) 出雲、土田、満田、酒井、稻継、宮田、美濃（7名）

4. 【配付資料】

- F9Ph2SC65-0 第65回 LLW廃棄体製作・管理分科会議事次第
F9Ph2SC65-1 専門部会・分科会人事シート LLW廃棄体製作・管理分科会
F9Ph2SC65-2 第64回 LLW廃棄体製作・管理分科会議事録案
F9Ph2SC65-3-1 大型角型容器形態編標準（コメント対応表）
F9Ph2SC65-3-2 大型角型容器形態編標準（新規附属書X）
F9Ph2SC65-4 大型角型廃棄体標準検討作業会の進め方

5. 議事

(1) 出席者の確認

田村幹事から、14名が出席しており、分科会成立に必要な委員数（12名以上）を満足している旨の報告があった。

(2) 人事について

田村幹事から、分科会については異動ない旨の報告があった。また、大型角型廃棄体標準検討作業会委員について再確認を行った結果、JAEA石川委員から参加の申し出があり、分科会として了承した。

(3) 前回議事録案の確認

田村幹事から、F9Ph2SC65-2に基づき、前回議事録案について説明があった。本分科会において追加コメントは無く、承認された。

(4) 大型角型容器形態編標準（コメント対応表）について

委員から、F9Ph2SC65-3-1に基づき、前回までの分科会コメントへの対応方針が示され了承された。この対応方針に沿って附属書Yを修正し、次回以降の分科会で説明することとした。

記載方法等詳細の他は特に質疑なし。

(5) 大型角型容器形態編標準（附属書X）について

委員から、F9Ph2SC65-3-2に基づき説明があった。これまで、検討の方向性について例示を用いて報告してきたが、分科会メンバーの多くが交代になったことも踏まえて、附属書X全体の内容について分科会メンバーと共有した上で、大型角型廃棄体標準検討作業会にて個別の論点について議論することとした。今回の説明と質疑も踏まえて、9月30日までにコメントをいただくこととし、幹事よりコメント集約表を送付する。

主な質疑は以下のとおり。

(Q) 今回の全体説明を受けて議論してほしい論点は、標準の全体構成や説明の流れということで、表現や誤記のような編集上の記載チェックは今後ということでよいか。

(A) これまで説明してきた記載案では全体として理解しにくい部分もあった。今回のまとめ方でよいのかどうか議論いただきたい。

(C) 各位、持ち帰っていただいてあらためてコメントいただきたい。本文と各附属書の内容を体系的に包括したものが今回示す附属書XとYである。次回以降は廃棄体製作手順の詳細である附属書Yを説明する予定である。

(Q) 附属書Xは想定以上に多くのことが決定事項のように記載されている。埋設側の受入れ条件に合致している必要があるが今は決まっていない。順次、時期に応じて変更していくのか。

(A) この大型角型廃棄体を埋設する施設は未定であるが、浅地中処分ということで基本的には六ヶ所と変わらない。これをベースに一定の条件を想定して検討する。最終的には埋設要件が明らかになった段階で再確認する。

(C) 学会標準で具体的要件を書き込みすぎないようにしてほしい。JAEAも研究所等廃棄物の埋設主体であり、本標準を参考にすることになるが、具体的な事項は決まっていない。

(C) 書き方で工夫できるので、懸念事項はコメントとして提示してほしい。

(A) 標準中では細かい数字を決めてある箇所もあるが、それ以外でもしかるべき試験データが揃えば適用可能である旨記載している。ただし、規制庁の技術評価も念頭に記載しているので、できるだけ仕様規定にできるよう配慮している。

(C) 今回説明された附属書Xの構成について参考までに発言する。本文規定があり、この規定に関する解釈があり、これを支える技術根拠を示すという構成は、いろいろなところで整理されている構成と同じである。規制庁の二種埋設の規則/解釈、土木学会の標準示方書や建築学会のJASS5も同じような構成となっている。

(C) 今の構成は分かりやすく賛成であるが、原子力学会の標準作成マニュアルでの基本様式とは異なるので違和感があるという意見が出る可能性もある。この分科会で方向性を決めて今後専門部会、標準委員会に報告する必要がある。

(C) 必要なことは原案で網羅されているので、最終的にどうするか決まってから組み替えることは可能である。

(Q) 様式について違和感はない。本文規定の部分に下線を引きその解釈を次項で示しているが下線部や解釈の過不足は分科会で議論するのか。また、エビデンスはすべて公開されているものか。

- (A) エビデンスは全て公開されているものを使用している。
- (A) 本文規定の下線部の解釈をどこまで書くかも含めて作業会で議論したい。
- (Q) 附属書XとYは、本文と他の附属書をまとめたものという位置づけでよいか。また、例えば、本文規定の中に「詳細は附属書G参照」となっているがこれと次項の解釈との関連が分かりにくい。二重構成、三重構成になっているように見える。また、附属書Xの最初に構成の説明があったほうがよい。
- (A) 他の附属書は完成しているという前提であり、解釈と手順を見てくれれば分かるよう整理したものである。ただし、全てを附属書X、Yに盛り込むと膨大になるのでそこは整理している。1次案として提示しているので、コメントを踏まえ今後修正していきたい。

(5) 大型角型廃棄体標準検討作業会の進め方について

委員から、F9Ph2SC65-4に基づき作業会の体制、作業会で議論したい技術根拠について説明があった。具体例として、技術要件項目である、「処分容器仕様」、「容易に固型化できること」、「廃棄体が強度を有すること」、「飛散率が小さいこと」等について適合していることを示す技術的根拠の報告時期の説明があった。今後、作業会で議論を行う中で必要なデータを取りまとめていく。

また、作業会の議事録については分科会の開催とは別に、メールにて分科会メンバーに共有することとした。

主な質疑は以下のとおり。

(C) 技術根拠の議論では附属書X、Yだけではなく詳細事項を整理している他の附属書（容器仕様や廃棄体強度）が必要になる。今回説明されたPPT資料にメインとなる附属書を入れたほうがよい。

(A) 了解。

(Q) 作業会の議事録は分科会に報告されるのか。

(A) 作業会が終わる都度、メールにて議事録を共有する。

6. 次回の予定

別途、調整する。

以上